

# 美浜町フレンドシップ草の根国際交流ホームステイの旅 in シンガポール2014年 旅の記録

8月21日（木）～26日（火）の6日間、小学生15名、中学生10名がシンガポール共和国で学校交流やホームステイを体験してきました。参加者は、学校・ホストファミリーから大変温かいおもてなしを受け、一生の思い出に残る貴重な経験をしました。

## <6月20日（金） 参加者説明会（役場大会議室）>

参加者説明会では、まず参加児童・生徒一人ひとりが、自己紹介をしました。



続いて、昨年の様子をスライドショーで見ました。参加者は国際交流について大まかなイメージをもつことができました。最後に小・中に別れてシンガポールで披露するパフォーマンス（小学生：あたりまえ体操、中学生：恋するフォーチュンクッキー）の打ち合わせを行いました。



## <事前学習会（役場大会議室）>

シンガポールでのホストファミリーとの生活、また学校交流で困らないように旅行前に3回の学習会を行いました。

### <7月18日（金） 第一回事前学習会>

まず、参加者の士気を高めてもらうため、近藤先生よりシンガポールの気候や文化についてクイズ形式で教えてもらいました。

その後、斎藤先生の指導のもと、英会話の練習をしました。日福大の学生さんにも協力してもらいました。シンガポールで披露するパフォーマンスの練習も始まりました。



### <7月31日（木） 第二回事前学習会>

善明先生からシンガポールの歴史について教えてもらいました。その後、二回目の英会話の練習を行いました。イーミン小学校とニーアン中学校で披露するパフォーマンスの練習も行いました。





<8月8日(金) 第三回事前学習会>

最後の学習会では、旅のしおりの内容や旅行日程、自分の役割、シンガポールについてなどをクイズ形式で再度確認しました。学生さんと最後の英会話練習も行いました。



学習会でお世話になった日福大の学生さんありがとうございました。



## <8月18日(月) 結団式>

旅行直前の結団式では、山下治夫町長から激励の言葉をいただき、その後訪問団の団長である、加藤教育委員長より旅及び交流について話をいただきました。



続いて、児童・生徒が一人ずつシンガポールでしたいことなどの決意表明をしました。



最後に、来賓として参加していただいた町内の校長先生や教育委員さん、保護者の方々にシンガポールで披露するパフォーマンスを観ていただきました。



## <8月21日(木) 訪問1日目>

出発当日の朝、出発式を行い、家族や町内の校長先生、教育委員さん、町職員など多くの方に見送られながら、元気に役場を出発しました。



ホームステイの旅に行ってきます！

中部国際空港へ到着後チェックイン



シンガポールへ向けて出発



シンガポール・チャンギ国際空港に無事到着



本年はニーアン中学校でイーミン小・ニーアン中の合同歓迎会が開催されました。  
ニーアン中の生徒の司会により両国代表あいさつ、パフォーマンスが披露されました。  
子どもたちは、シンガポールの方たちからの盛大なおもてなしを受け、緊張が少しほぐれたようでした。

歓迎の様子



ニーアン中校長あいさつ



ニーアン中生徒によるパフォーマンス



ドキドキ、ワクワク。マッチング（対面式）の様子



## 歓迎夕食会の様子



歓迎夕食会后、家庭毎に解散し、ホームステイを行いました。

## <8月22日(金) 訪問2日目>

イーミン小学校、ニースン中学校に登校し、学校交流を体験しました。

## <イーミン小学校での交流の様子>

実際の授業に参加しました。



休憩中に食堂で軽い食事いただきました。



<ニーアン中学校での交流の様子>

朝礼に参加して、代表あいさつや「恋するフォーチュンクッキー」を披露しました。



全員で記念写真をとったあと、授業にも参加しました。







授業後、ホスト宅の児童・生徒とともに市内見学を楽しみました。

<イーミン小学校>

シンガポール国立博物館



シンガポール国立植物園



シンガポールフライヤー



<ニーアン中学校>

セントーサ島観光





<8月23日(土)・24日(日) 訪問3・4日目>

訪問3日目、4日目は、各家庭にて終日ホームステイを体験しました。施設見学や外食に行ったり、中には結婚式に参加させてもらった子もいました。ホストファミリー児童から手紙をもらうなど友情を深めることができました。



<8月25日(月) 訪問5日目>

シンガポールで過ごす最後の日も学校交流に参加し、新しい友達をたくさんつくることができました。

<イーミン小学校での交流の様子>



<ニーアン中学校での交流の様子>



授業終了後、両校合同お別れ会がイーミン小学校で開催されました。今回の交流の様子をまとめたスライドショーや両校からのプレゼントもありました。

美浜町の児童・生徒も、「あたりまえ体操」と「恋するフォーチュンクッキー」、また「上を向いて歩こう」の合唱を披露し、とても和やかな雰囲気での交流をすることができました。お別れの昼食会も用意していただきました。





両校の先生方、ホストファミリーの皆様！本当にお世話になりました。



お別れ会後は、イーミン小学校・ニーアン中学校に別れを告げ訪問団だけで、まずマーライオン公園に行きました。



続いて、シンガポール政府観光局を表敬訪問し、シンガポールの歴史・文化・観光などについてわかりやすく紹介していただきました。





次に、シンガポール日本人会を表敬訪問しました。事務局長の杉野さんのご尽力でイーミン小学校・ニーアン中学校との交流が始まった経緯があり、その杉野さんより日本とシンガポールとの生活や文化の違いなどを教えていただきました。



日本人会の次は、郷土の偉人「音吉」が眠る「日本人墓地公園」へ行きお参りをしました。



夜は、楽しみにしていたナイトサファリに行きました。



夜10時頃空港到着。遅い時間にもかかわらず、お世話になった両校の先生やホストファミリーの皆さんが見送りに来てくださり、参加者と旅の最後の交流をしました。







<8月26日(火) 訪問6日目>

中部国際空港に、朝9時頃到着しました。



加藤委員長と児童・生徒の代表から到着式にて到着の報告をしていただき、4泊6日のシンガポールへのホームステイの旅がすべて終了となりました。



### <9月11日(木) 報告会並びに解団式>

参加児童・生徒全員がシンガポールでの体験を発表しました。体験してきたことを、テーマ別にスライドを使いながら、町長や町内の校長先生、教育委員、保護者の方々の前でしっかりと報告することができました。

#### 野間小児童の発表



#### 奥田小児童の発表



上野間小児童の発表



河和中生徒の発表



野間中生徒の発表



最後に、石橋校長より旅の総括と教育長より終わりの言葉をいただき、今回の国際交流のすべての行事を終えました。



# 掲載新聞記事（中日新聞）

平成26年8月21日（木）朝刊

## 半島の子 海外へ続々

### 美浜からシンガポール



ホームステイへの参加を前に思いを語る子どもたち＝美浜町河和北田面で

「美浜町からシンガポールを訪ねる一町フレンドシップ草の根国際交流ホームステイの旅」に参加する小中学生の結団式が十八日夜、同町河和北田面の町保健センターであり、団員二十五人を含め七十人が出席した。二〇〇五年に開かれた愛・地球博（愛知万博）で町はシンガポールと共同催事に取り組み、旅はその準備事業として始まり、継続し

ている。今年は五月末～六月上旬、シンガポールの子どもたちが美浜町でホームステイした。

今回は町内の小学五年～中学三年の男女が参加。現地でホームステイし、日本人会と交流したり、日本で初めて聖書を訳したとされる美浜町出身の船乗り音吉の墓などを訪ねたりする。

結団式では、山下治夫町長らがあいさつ。子どもたちが「シンガ

ポールの子どもたちとの「恋するフォーチュン会うのが楽しみ」など「クッキー」などを披露し、仕上がり具合を確かめた。現地ではアイドルグループAKB48

（沢井秀之）

平成26年8月27日（木）朝刊

## 美浜のシンガポール訪問団 小中生が笑顔で帰国



「美浜町フレンドシップ草の根国際交流ホームステイの旅」でシンガポールを訪問していた町内の小中学生二十五人が二十六日、帰国し、町役場で到着式があった。

六日間の日程を終え、中部国際空港からバスで町に戻った子どもたちは、両親の歓迎を受け、山下治夫町長からねぎらいの言葉がかけられた。

式では、派遣団長を務めた町教委の加藤信委員長が無事帰国を報告。「ホームステイの最初は不安げで心配だったが、終わりにには元気いっぱい顔をみて、一回りも二回りも大きくなったなど感じた」とたたえた。

参加者の一人、野間中三年の間瀬晋作君（も）は「言葉が通じることが不安だったが、ホームステイ先では、身ぶり手ぶりを交えて簡単な英語で話し掛けてくれてありがたかった。これからもメールなどで交流し、美浜とシンガポールの絆を深めていきたい」と旅を振り返った。（沢井秀之）

旅を終えて笑顔でバスから降りる子どもたち＝美浜町役場で

# 美浜町フレンドシップ草の根国際交流ホームステイの旅 in シンガポール2014感想文集





ぼくは、シンガポールへ行って、食文化について見てきました。まず、一番しょうげきをうけたのは、学校での昼食です。給食を食べる日本とは、まったくちがうスタイルでした。ショッピングセンターのフードコートみたいな食堂で、買いたいお店に行き、食べたい物を買って、好きな席で食べます。家庭では、外食が多いそうです。家から歩いてすぐの所に屋台のようなお店がたくさんありました。夕食の時には歩いて

行って、食べました。日本食に似た食べ物もありました。焼きそばのような物、焼きとりのような物がおいしかったです。おかしは、日本の物よりとてもあまかったです。シンガポールの水は、よごれが多いらしくぼくが泊まった家のじゃ口には、タオルがかぶせてあり、それでごみを取って、それからわかして飲むそうです。日本の水はきれいなんだなあと思いました。南国フルーツもたくさんありました。マンゴー、ドラゴンフルーツなどなど、日本ではめずらしい物がたくさん食べられました。中でも「果物の王様」とよばれているドリアンも食べさせてもらいました。かいたことのない、ものすごいにおいでした。においのインパクトが強すぎて、味は、おいしかったのかどうかわかりませんでした。シンガポールでは、とても貴重な体験が出来ました。



わたしは、シンガポールで食べ物を見てきました。口に合わないのもあったけれど、シンガポールのいろいろな食べ物を見ることができたのでよかったです。まず一つ目は金曜日にイーミン小学校で食べた、ラーメンのようなものです。味はうすくてやさしい味です。めんはやわらかくて少し太いのでのどに入っていくやすかったです。具は魚のすり身でおいしかったです。次は日曜日に、ホストファミリーの家で朝ごはん

にでてきた、パンのようなものです。あまくもなく、からくもなく、すごくおいしかったです。しかし、ホストファミリーの家だとチリソースにつけて食べました。わたしも食べてみたら、ピリッとからくて、おいしかったです。最後は、同じく日曜日にホストファミリーの家で朝ごはんに出てきた、やきそばのようなものです。日本のやきそばよりもめんが短くて、ピリッとからかったです。でも、クセになる味で、すごくおいしかったです。シンガポールの食べ物を見てきて思ったことは、あまいものやうすい味のもあったし、からいものもあったということです。シンガポール人はどちらが好きなのかなと思いました。でもいろんなことがわかったのでよかったです。



ぼくは、シンガポールでおどろいた事がたくさんあります。最初は町並みについてです。美浜町とはちがって高いビルやアパートが多くありました。道の横には木がたくさんはえていました。次におどろいたのは、シンガポールはとてもきれいな国だと思っていたけど意外にごみがあったことです。食べ物については、日本とちがい、いろいろな物が甘かったです。ぼくは出されたスープが甘すぎて飲

めませんでした。ぼくがシンガポールで好きになったのはとり肉料理です。日本の味と似ていて何度も出てきたからです。あとはイーミン小学校では放課中に食堂でラーメンやハンバーガーなどのおやつを食べていていいなあと思いました。ホストファミリーとの休日、一日目はセントーサ島のプールに行きました。波の出るプールは日本のものと比べて高かったです。その日の夜は、おじいさんの誕生日会をしました。とてもおいしいケーキを食べました。次の日は釣り堀でえび釣りをしました。ぼくはえびを3匹釣りました。ぼくはシンガポールでとてもいい経験ができました。最初はさびしかったけど最後はとても楽しかったです。シンガポールの人と少しだけきずなが深まったなあと思いました。



シンガポールへのホームステイを終えて、ぼくはとても自信ができました。初めての経験をたくさんさせてもらったからです。初めて飛行機に乗って海外へ行ったし、日本では食べたことがなかったドリアンやマンゴスチン、ランブータンなども食べました。ドリアンはフルーツの王様だと教えてもらったけど、食感が苦手でした。でもマンゴスチンは甘くておいしかったです。ホストファミリーのお父さんとお母さんはいつも笑っていて、とても優しい人でした。でも子どもたちを怒っていることもあって国

が違って、親って同じだなと思いました。また三人兄弟はたくさん習い事をしていて、これも日本のぼくたちと変わらないと思いました。日本と違うと思ったことは、罰金の看板がたくさん立っていたことです。特に交通ルールに厳しいようでした。ゴミを捨てる時罰金だときいていたけど、ゴミも落ちていたので罰金制は、あまり意味がないなあと思いました。ホームステイ中にぼくの誕生日がありました。ケーキを準備してくれて、祝ってくれました。シンガポールでは、誕生日の人が最初にケーキ入刀をします。日本の結婚式みたいでおもしろかったです。家族以外と誕生日を過ごしたのは初めてだったけど、とても思い出に残る誕生日になりました。一生忘れないと思います。貴重な経験をさせてもらったので、この経験をいかして、がんばりたいです。



私は、シンガポールに行く前は、英語が話せないので思ったことが伝わるか、ホストファミリーと仲良くできるか心配でした。でも、楽しみだったことは、私の家にホームステイで来たフランセーヌがホストをしてくれることでした。フランセーヌは家に来たとき、きん張していたけれどがんばって私達に話しかけていたので、私もシンガポールに行ったらがんばろうと思っていました。

シンガポールでフランセーヌに会えたときは、本当にうれしくてドキドキしました。フランセーヌの家族は、いつもニコニコ笑って優しくしてくれたので、安心して楽しく過ごせました。特に楽しかったのは、家族とトランプをしたことです。ババぬきと、フランセーヌのお父さんが教えてくれたゲームをしました。負けた人は、顔にローションをぬられるルールにしたので、みんな顔がローションだらけになって大笑いでした。行く前に心配していたようなことは全くなって、ハッピーでした。最後の日に、日本人会の人から「シンガポールは、主に三つの民族で成り立つ多民族国家だけれど、学校やマンションに必ず三つの民族の人を入れるようにして、仲良くくらしている。」と教えてくれました。私も、国のちがうホストファミリーと仲良くできたので、これからも、日本や世界のいろいろな人と仲良くしていきたいと思います。

奥田小6年 沼田 麻佑



わたしは、なぜシンガポールに行ってみたかったかということ、海外に行ったことがなかったからです。わたしの家に、シンガポールの子がホームステイに来てくれて、わたしも、シンガポールに行ってみたいと思ったからです。いざ行くことになったらすごく心配になってきました。けどワクワクもしていました。セントレアに行って飛行機にのる手つづきが大変でした。

美浜町での、ホームステイを受けたターリンとの再会ができて、うれしかったです。ターリンの家にとまることはひじょうに楽しみでした。ターリンの家では、たくさんの方がいたのでびっくりしたけれど、うれしかったです。お母さん、お姉さん、弟と仲良くなれるかが心配でしたが、仲良くしてくれてうれしかったです。食事では、日本とっしょの物が売っていましたが、食事で、すし屋に連れていってくれました。回転寿司もあったけれど少しかわったすし屋がありました。たなに、置いてあって、それを買って食べました。すしは日本とっしょの物があつたので、わたしは、それをたべました。おいしかったです。シンガポールの有名なマリーナベイサンズを見られてうれしかったです。シンガポールフライヤーでは、たくさんの方が乗れたので、知らない人でも友達になれました。シンガポールフライヤーの頂上では、マリーナベイサンズが見られてすごくきれいな景色でした。シンガポールの学校は、わたしたちとちがって、エレベーターがあつてびっくりしました。広くてきれいな学校でした。学習会の英語で習った事は少しは話せて通じたときは、とてもうれしかったです。わたしにとってすばらしい一週間でした。





ぼくが、シンガポールで一番心に残ったことは、シンガポールフライヤーという観覧車です。なぜ一番心に残ったのかというと、一番上まで行くと、マリーナベイサンズというホテルが、はく力があって、写真に写すと、ホテルの下から撮るより、上から撮った方がいい写真がとれたからです。そのシンガポールフライヤーは、世界で一番高い観覧車です。シンガポールフ

ライヤー付近の観光地は四つあります。まず一つは、マーライオン公園です。天気がよければ、マーライオンの口の中から出ている水を使っておもしろい写真がとれます。マーライオンから出ている水を飲む写真、手を受け皿にして、水を受けとる写真など、おもしろい写真がとれます。二つ目はマリーナベイサンズです。屋上では、プールがあり、夜の景色や花火を見ることが出来ます。三つ目は植物園です。そこは、まよってしまうぐらい大きかったです。四つ目はサーキット場です。シンガポールフライヤーの周りをまわってレースをします。ぼくがおどろいたのは、シンガポールに高島屋があったことです。外国にチェーン展開をしていることがすごいいと思いました。動物園では、園内がとてもひろくてバスが走っていました。馬に乗ったり、ホワイトタイガーを見たりとたくさんの動物を見ることができました。今度は、もっと英語が話せるようになって、またシンガポールに行きたいです。



シンガポールにホームステイをした六日間をぼくは一生わすれないと思います。家に帰ってきてからデジカメでとった写真を印刷したら二百八十八枚もありました。ホームステイ先のシアン君のお父さんがプレゼントしてくれたUSBの写真も合わせると四百枚をこえました。思い出すと楽しいことばかりで、家族に何かから話したらいいかこまってしまうほどでした。行く

前は、英語が話せるかどうかと不安なこともあったけど、シアン君の家族はとても親切でやさしかったです。シアン君は、家では中国語を話していたけれどぼくとしゃべる時は英語でゆっくり話してくれたりしました。イーミン小学校の子たちとも交流してわかったことは、国がちがっても仲良くなれるということです。食堂で昼食をとった後、みんなでサッカーをしたのが楽しかったです。シンガポールにはいろいろな形のビルがあっておもしろいと思いました。特にマリーナベイサンズをデザインした人や工事をした人たちはすごいと思いました。シンガポールフライヤーに乗った時工事中のクレーンが見えたので、どんどんまたビルが建ってゆくんだなと思いました。音吉さんたちがシンガポールに来たころはどんな風景だったのだろうと思いました。ぼくはこの旅で、少し勇気を出してみることに大切さがわかった気がします。美浜町のちがう小学校の友達ができたこともよかったです。また、いつかシアン君に会いにシンガポールへ行きたいし、美浜へも家族で来てくれたらいいのになと思いました。



私がシンガポールに行き思ったことは、街がとてもキレイということです。みんなから「シンガポールはゴミが落ちていなくてキレイだよ」と言われていましたが、思っていた以上にキレイでした。ゴミ箱も、ちょっと歩くとすぐにありました。だから、とってもいい国だなと思いました。シンガポールには、マンションがたくさんあります。しかも、多くのマンションが十階以上ある高いマン

ションでした。だから、マンションの一番上を見ると、まどや、洗たく物が小さく見えます。美浜の家はほとんどが一軒家に比べ、シンガポールはマンションが一軒家より多かったです。車で少し行った所には、お店、人、車の多い街がありました。その街の地面にも、ゴミはぜんぜん落ちていませんでした。この街は建物が低く、同じような建物がならんでいました。また少し歩くと、ヒンズー教のお寺がありました。このお寺の門の上には、赤や黄のカラフルな人形が何段にも、高くとまっていた。中も日本のお寺とはちがい、とても色あざやかで外国に来たというのを感じました。シンガポールの街は、マンションが多く、道路が広くて、とても新しい街だと思いました。



ぼくがシンガポールに行って思ったことはホストファミリーの方がぼくのことを、よく考えてくれたことです。ぼくが行った家の子は、ユージンといいます。そのユージンが重たい荷物を持ってくれたりしました。うれしかったです。ぼくがびっくりしたことは、シンガポールの食べ物です。食べ物は、こんなので出てくるのと思う食べ物もありましたが、食べてみると、いがいにおいしい食べ物もありました。日本で食

べるようなものも食べました。シンガポールの町を歩いていると、中国人ばかり見かけました。日本人会に行って、聞いてわかったことですが、シンガポールでは、中国、マレー、インドの国の人と一緒に住んでいます。ぼくは、いろいろな国の人がいるの、すごいと思いました。シンガポールは、緑がすくないと思っている人がいると思いますが、それはちがいます。シンガポールには緑もたくさんあります。日本とちがう種類の植物がたくさんあってびっくりしました。ぼくは、自分の家族がすごく大切だなと思いました。お父さんがいれば、こまったとき助けてくれる。お母さんがいれば、ぼくのすきなごはんを作ってくれる。弟、妹がいれば楽しく会話、遊ぶことができる。すごく家族が大切なことがわかりました。この旅では、あたりまえでわすれていたことを思い出すことができ、シンガポールという国のことを知ることができてとてもよかったです。



私は出発前、事前学習会や学校で英語の勉強をしたものの、本当にホストファミリーの方たちとうまくコミュニケーションがとれるかどうか心配でなりませんでしたが、しかしホストファミリーの方たちは笑顔で温かく私をむかえてくれたのでほっとしました。初めはあまり自分からは話しかけられなかったけれど、ジーナとグレンダが私に積極的に話しかけてくれたのでとてもうれしかったです。私も負けずに会話をはず

ませようと思い、おり紙でシュリケンの作り方を教えてあげました。すると、シュリケンをととても気に入ってくれて、みんなでたくさん作ってとばして遊びました。言葉が通じなくても、同じ遊びをすることで、心が通じあうのだという事を実感することができました。これをきっかけにジーナとグレンダとさらに楽しくすごせるようになりました。バスケットボールをしたり、ピアノをしたり、一緒に写真をとったり、その他にもたくさんのことを行いました。楽しい時間はあっという間で、お別れの時はとてもさみしかったです。私にとってこのホームステイは初めての事や、おどろきの連続でとても良い体験になりました。本当にありがとうございました。



今回このシンガポールの旅で、とくに見てきたことがあります。「街なみ」です。シンガポールはきれいと聞いていたので、どのような工夫がされているのか見てみると、ごみ箱が多くおいでありました。多いところには、一家に一個ずつ置いてありました。そしておどろいたことがあります。日本では燃えるごみとペットボトルなどを分けて捨てています。でもシンガポールは分別しないで捨ててありおどろきました。

次にバスが多く走っていました。一階のバスや二階のバスがありました。バスが多く走っていて、どのバスにも多くの人に乗っていました。また、トラックの荷台にたくさんの方が乗っていました。シンガポールはみんなで乗る車が、多いのだと思いました。朝でも夜でもたくさんの方が、バスを利用していました。それをみて美浜町ではこんなにバスが走っていないので、めずらしく見えました。一番おどろいたのは、まどから洗たく物がほしてあったことです。日本はベランダやお庭などに洗たく物をほしてあると思います。でもシンガポールは高いビルのベランダのないまどから一本のさおがつき出ているので、洗たく物をほしてしまいました。洗たく物をほす時しまう時に、下におちないのでしょいか。一本のさおでほしてあったので、全ての洗たく物をほしきれないのでしょいか。強い風がふいた時洗たく物は、とばされないかなと色々疑問に思いました。町なみを見て美浜町とはちがうことが多くありました。そしてバスなどを使っていて、エコなんだと思いました。



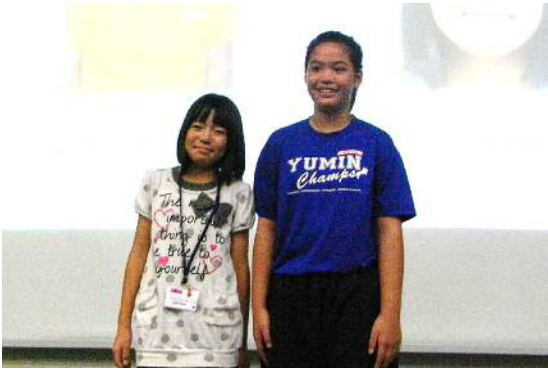
私は今回の「ホームステイの旅」でおどろいたことが二つあります。一つ目はマンションやアパートにシンガポールの国旗がたくさんかざってありました。理由は、日本人会の人に聞いて分かったのですが、8月9日はシンガポールの独立記念日ということで8月9日の前後一か月は国旗をかざってもいいとなっているそうです。日本でも祝日に日本の国旗をかざる習慣と同じなのかなと思いました。二つ目におどろいた

ことはホームステイでお世話になったラオ先生が住んでいたマンションもそうなのですが、マンションや家の前には必ずゴミ箱がおいてありました。シンガポールはきれい好きな国なので道にゴミを捨ててはいけません。だからシンガポールにはゴミ箱がたくさんあるのだと思います。改めてきれい好きな国なのだと感じました。私も見習いたいと思います。最後にシンガポールは色々な宗教の人が暮らしています。宗教がちがうと考え方もちがうので人の気持ちを理解するのは難しそうです。しかし、あえて色々な宗教の人が一緒に暮らすことにより、他の人の気持ちを理解しようとするためシンガポールの人々は広い心をもっているそうです。だから、私もシンガポールの人に教えてもらったたくさんのことを忘れないようにしたいです。今回はこの様なきちょうな体験をさせて頂き本当にありがとうございました。



ぼくはシンガポールに行って、多くのことを学んできました。一つ目は、高い建物がとても多いということです。シンガポールは面積がとても小さいので、土地を有効に使うために、高い建物がたくさんあります。そのため、シンガポールの人たちの多くはマンションに住んでいます。二つ目は、観光地がとても多いということです。マーライオンやシンガポールフライヤー

などいろいろなものがありました。政府観光局の方々が、努力していろいろなものをつくっているからです。三つ目は、イギリスの文化が多く残っているということです。昔、シンガポールは、イギリスの植民地でした。そのため、シンガポールはイギリスの文化が多く残っているのです。四つ目は、人種についてです。シンガポールは、中国系、マレー系、インド系など、さまざまな国の人がいます。そしてこんなに多くの国の人が住んでいるのに人種問題が少ないことにびっくりしました。シンガポールは、人種問題がおこらないように多くの工夫がされていました。例えば、マンションはバランスよくそれぞれの国の人が住むようにしています。ホストファミリーの人たちとしゃべるときはとてもたいへんでした。しかし、だんだんなれてくるととても楽しくしゃべれました。ぼくは、この旅で多くのことを学びました。この経験は一生の思い出にしたいと思います。



私の目標一つ目はマーライオンを見ることでした。マーライオンを真近で見ると、やはり、はく力がありました。二つ目の目標は、学校についてです。シンガポールの学校は、日本とちがって、ゆかはタイルで土足、食堂みたいなのがあって売店になっているし、授業中もつくえといすが木ではないし、黒板ではなく、ボードになっていて、スクリーンを毎回使っていて、特別教室などには、

つくえといすが少ないところが日本とちがうということがわかりました。三つ目の目標は、食についてです。シンガポールでシンガポールのすし屋さんに連れていってもらいましたが、日本とちがって、回転寿司のお皿の上にはプラスチックのとうめいの箱みたいなのがついて、すし屋さんなのに、カレーライスやハンバーグなどが売られていることにびっくりしました。ごはんは、日本と比べるとちょっと細く長くて、ぷっくりはしていなかったです。四つ目の目標は、ホストファミリーとの英語の対話です。自分が英語を話すのは、発音がちがったりするときもあるから不安でしたが、言われたことは大体わかりました。しゃべっている英語の知っている単語をぬき出してこの感じかなってやっていたらほとんどあっていただけ、やっぱりむずかしかったので今後はしっかりと復習や予習をしたいと思います。美浜町の代表としての自覚はイマイチでしたが、私はシンガポールに行けてよかったですと思います。そして、シンガポールに行かせてくれた人のありがたさがわかりました。



私は、シンガポールに行ってきた皆さんのことを学びました。一つ目は、英語が完全に話せなくてもコミュニケーションをとれて生活していけるということです。完璧に話せないと不便ですが、少しの単語でも会話は成り立ちました。ホストファミリーの方々はとてもやさしくて、笑顔で接してくれて、初日はとても緊張していたのですが、そのおかげで少しずつ心も打ちとけていきました。あまり好みじゃ

なくて、食べられないものがあったときは、最初は言わない方がいいかなと思っていて、がまんしていたのですが、ホストファミリーの方々、えんりよしなくていいよ、と教えてくれたので、えんりよせずに、楽しく食事の時間も和みながら過ごすことができました。ホストファミリーは、私を海や鳥パークにつれていってくれました。海では、ローラスケートと自転車しか通れない道路があって、びっくりしました。でも、安全だから日本にもほしいなと思いました。夜には夜景を見につれて行って船にのりながら見ましたが、とてもキレイで感動しました。ホストファミリーやシンガポールの人々のあたたかさにとっても感動し、行っていい旅になったと思いました。この経験を通じて、英語をがんばろうと思ったので、この美浜町とシンガポールの交流を続けていってほしいです。



私のシンガポールでの思い出は、たくさんあります。その中でも特に心に残ったことは四つあります。

まず一つ目は、ニースン中学校のことです。なぜかと言うと、日本とは全然授業の受け方も違っただけでなく、給食などがなかったことはとてもおどろきました。また、一緒にクラスになった子たちと仲良くなることができ嬉しかったです。二つ目は、食事のことです。食事は量が多く、辛いのか甘いのかなく、あまり口に合うのはなかったです。でも、日本の寿司はおいしかったです。ココヤシの実のジュースも飲みました。ココヤシの実のジュースは、思ったよりも甘くなくジュースというより水に近かったです。

三つ目は、結婚式です。私が見に行った結婚式は、会場が外で食べるものはバイキングになっていて、ウェディングケーキもあまり大きくなかったです。国が違くと文化もだいぶ違うのだなとあらためて思いました。

四つ目は、ナイトサファリです。ナイトサファリはシンガポールと一緒にいった子たちだけでしたが、すごく楽しかったです。シンガポールに行く前より行った後の方が、いろんな人と仲良くなることができよかったです。

このシンガポールの旅でいろいろなことを学ぶことができました。学んだことを生かしこれからもがんばりたいです。

このシンガポールの旅でいろいろなことを学ぶことができました。学んだことを生かしこれからもがんばりたいです。



初めてだらけのシンガポールでのホームステイ、それは驚き、楽しさ、大変さがたくさんあった6日間でした。いろいろな事がありましたが、僕が一番嬉しかった事は、ホストファミリーがとても優しくしてくれたことです。なかなか話せない僕に声をかけてくれたり、お腹がすきましたか、疲れましたかなど僕の体の事も心配してくれたりしました。会話をする時も「はい」「いいえ」で答えられるように、簡単

でわかりやすく話をしてくれました。僕もこんなホストファミリーのように優しくて気遣いのできる人になりたいです。僕はシンガポールへ行く前、英語が少しでも話せるようになりたいと思っていました。しかし実際に行って会話をしてみると、わからない事が多かったです。しかし、初めは何を言っているのかわからなかった事も少しずつわかるようになっていきました。この旅で英語を話す力はつきませんでした。英語を聞く力をつける事ができました。聞く力がついた事と、英語ばかりの環境で過ごす事ができた事は、僕にとってとても貴重な経験であり一番成長できた部分だと思います。あっという間の6日間の旅、気づけば別れの空港でした。ホストファミリーが、またシンガポールへ来てくださると言ってくれたので、英語を頑張る勉強し、話せるようになり、またシンガポールへ行ってホストファミリーに再会したいです。そして僕の成長した姿を見てもらいたいです。



シンガポールでたくさん学び、いろいろなことを知り、多くの友達ができ、すべてが良い思い出になりました。一番シンガポールに行ってきたと思ったことはシンガポールの友達と旅行が終わっても連絡を取り合い、ずっと「キズナ」を深めることができることです。英語で連絡を取り合えば英語の勉強にもなります。友達でいられることは良いことばかりなので、これからもたくさん連絡を取り合いたと思います。一番学ぶこ

とができたのは、シンガポールと日本との違いです。違いを見ただけでも何でそうなっているのかが分からなかったので、日本人会の方のお話はとても勉強になりました。これからは、シンガポールで学んだいろいろな考え方でたくさん視野を広げたいと思います。一番楽しかったことは、ホストファミリーと一緒にいられたときです。ホストファミリーには本当にとっても良くしてもらえました。寝る前にベッドで、カードゲームで遊んだりもしました。そういうことでも忘れられないほど楽しかったです。そして、シンガポールのたくさんの有名な場所に連れて行ってもらいました。きれいなもの、すごいものをたくさん見ました。そこで変なポーズをしたり、ハートをつくったり、たくさんの写真を撮りました。とてもおもしろかったです。たくさんの貴重な体験ができました。シンガポールに行ったら本当に良かったです。



私は、初めて海外に行きました。家を出る時から、緊張と不安でいっぱいでしたが、シンガポールにつき、ホストファミリーと会ったら緊張はとれましたが、不安はありました。英語が話せるか、言っている事が理解できるかなど他の事もたくさんありましたが、二日目にはもう不安はなくなり、楽しくすごす事ができました。学校では、友達を積極的につくっていき、授業もしっかりとうける

事ができ、ホストファミリーの子が今何をやっているかを、ほんやくしてくれてとっても分かりやすかったです。中国語を教えている先生は私達に気を使い、今から何をするか日本語で教えてくれました。休日には、私のためにチャイナタウン、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイなど他にもたくさんつれていってもらいました。ガーデンズ・バイ・ザ・ベイは、シンガポール固有の花もたくさんありました。ホストファミリーが花の名前など私に教えてくれました。休日にホストファミリーやホストファミリーのいとことすごした時間が私の中で一番の思い出です。私はこんなホストファミリーに出会えて本当にうれしく思っています。お父さん、おじいちゃん、いとこなど、幅広く私に気を使っただきとってもうれしかったです。今度会う時には、親切にしてくださいましたホストファミリーと、たくさん会話ができるように、英語をしっかりと勉強していきたいです。



僕は、シンガポールに行くにあたって、とも楽しみだった反面、とても不安で緊張していました。親元を離れることは学校行事で何度か経験したけど、海外に行くのは初めてだったからです。そのため、しっかり英語を勉強しておこうと思いました。しかし、生の英語はそんなに甘くありませんでした。一日目は何を言っているかがまったく分からず、戸惑ってしまいました。分かればだいたい答えられるけど、聞きとれないという状況でした。だからホストファミリーが優しく話しかけてくれても、上手くコミュニケーションがとれませんでした。でもホストファミリーはジェスチャーや簡単な英語を使ったりして、伝え方を工夫してくれました。そのおかげで、言葉が通じなくても楽しく過ごせました。ニースン中学校では、3Dプリンターがあってとても驚きました。観光では、いろいろなどところに行くことができました。その中でも、みんなで行ったセントーサ島が印象に残っています。二日目に行ったので、まだコミュニケーションは上手くとれなかったけど、みんな写真撮り合ったり、さわいだしながら一緒に過ごすだけでとても楽しかったです。5日目になると、もう英語にもだいぶ慣れました。そのためあって、イーミン小学校でお別れ会をした後は、すこし寂しかったです。帰りの空港では、最後の最後まで手を振っていてくれました。そんな優しい仲間に、また会いたいです。この旅では、とても大切な経験、絆、そして仲間がたくさんできました。その思い出をくれたたくさんの方々へ感謝しています。そして、この思い出をいつまでも大切にしていきたいです。最高の仲間に、また会える日を願って。



私は、シンガポールでたくさんのことを学びました。シンガポールでは、日本と違ったことがたくさんありました。まず最初に驚いたのが、シンガポールの人たちは、みんな仲がよかったことです。シンガポールには、中国人、インド人、マレー人、混血の人種がいました。ニースン中学校は、すべての人種がいて、どの人種の人も、みんな仲良くしていました。他にも、驚いたことはありました。ニースン中学校では、フードコートがあり、たくさんの種類の食べ物や日本食までありました。そして、ニースン中学校の休み時間は、野間中学校と全然違いました。野間中学校はちょこちょこ休み時間があるのに対して、ニースン中学校は、一時間目が三十分で次の二十分が休み時間であり、後は、休み時間がありませんでした。シンガポールの学校や町並みは、美浜町と全然違ってびっくりしました。町並みでは、通路の車線の違いや、ゴミが落ちていないこと、そして、いろいろな国の食べ物があり、高いマンションもありました。その他にも、夜、昼は外食、そして、車での通学やバスでの通学にもびっくりしました。逆に、自転車通学にとっても驚かれました。そして、ホストファミリーのお兄ちゃんが、男の人は、何歳かになると軍隊に入らないといけないなどがあって、法律や決まりが厳しい国だと改めてわかりました。この国際交流で友達になった仲間とこの交流に力を貸してくれた人すべての人に感謝したいです。





僕は出発する前日まで不安でした。はっきりと話せるかどうか、ホームステイ先の人とちゃんとやっていけるかどうか。そして着いたシンガポール、初めて会ったホームステイ先の人、初めての町並、とてもすごかったです。だけど、何を言っているのかまったく分からず、とまどいました。だけど、スマートフォンで日本語にしてくれた時は、とてもうれしかったです。2日目になると、コミュニケーションがとれやすくなっていました。とくにYes、No、OKなど短い表現で通じたことがすごかったです。観光している時もそうでした。3日目や4日目は主に、家族とすごしていました。その時は、すこしだけ英語慣れしていました。ホストファミリーとすごした時間はものすごく短く感じました。とても楽しかったです。5日目、とうとう別れの日となりました。学校では、授業を受けました。その学校で、ある先生が「日本では、何時から何時まで学校があるの?」と聞かれました。僕は、「午前8時から午後4時まで」といったら、ものすごいびっくりした顔をしていました。僕も実はこの学校にびっくりしました。午前中でおわりなんだと思いました。そして空港、本当のお別れ、とても悲しかったけど、泣きませんでした。泣いたら迷惑になると思ったからです。最後まで笑顔でいたかったからです。とても楽しい思い出になりました。



僕にとっては初めての海外への旅でした。初めはいつもの調子でいけばなんとかなるだろうと思っていました。しかし飛行機がどんどん日本を離れ、どんどんシンガポールへ近づいていくうちに僕の心の中は不安と緊張でいっぱいになりました。シンガポールに着くとまず鮮やかな緑色と多民族国家ならではの様々なおいが僕の視覚と嗅覚を驚かせました。しかし、その興奮はすぐに次の緊張へと変わっていきました。初めて対面するホストファミリーはどんな人なのかと、とても緊張しました。でも、ホストファミリーの人はそんな僕を安心させてくれるような笑顔で僕を迎えてくれました。学校での歓迎会を終えて家につくとそこはもう、日本語がこの世からなくなった異世界に行った気分になりました。みんな話しているのは英語で、なまりなどもあり、学習会でやったようなゆっくりした話し方じゃなくてとても不安でした。でも、周りに助けてくれる人はいない。だからこの困難を自分の手で乗り越えていこうと思いました。自分からは中々言い出せなかったけれど、相手が話していることを理解して、質問に答えるという形でもけっこう話せるのだなと思いました。もし、自分の学校に黒人の外国人がいたら僕はシンガポールに行くまでは多分、その子と距離をおいていたと思います。日本人の中学生のほとんどはそうだと思います。しかしシンガポールの人は英語を話せない僕にカタコトの日本語で話してくれたので、僕も下手な英語で話しました。僕はそんなことで日本とシンガポールの絆が深まっていく、気がしました。そしてこのホームステイの旅に携わってくれた全ての人たちに感謝をし、少しでも恩返しができるようにこれからの生活を送っていきたいです。



私は、多くの期待と不安を抱え、この国際交流に臨みました。ホストファミリーに会うまでとても緊張していました。しかし、笑顔で迎えてくれ、少しほっとしました。

日本人のみんなと別れてからは、ずっと英語しかない環境になり、今まで体験したことがなかったし、あと四日間大丈夫かなと、とても心細かったです。でも、私が聞き取れなかったら、単語で言ってくれたり、翻訳機能で日本語にしてくれたり、とてもやさしくしてくれました。二日目ぐらいからだんだんと英語に耳が慣れてきて、少し会話ができるようになったときはとても楽しかったです。

ニーアン中学校は、日本と違うことがたくさんあって驚きでした。例えば、学校はとても広く、教室もたくさんありました。校舎の外には、熱帯の植物がたくさん植えられていて、大きな鯉も泳いでいて、まるでリゾートホテルのようでした。一番驚いたことは、生徒のほとんどが携帯電話を学校で使っていたことです。私たちの学校では校則で不要物として持って行ってはいけないけれど、わからないときに調べたりできて、あると便利だと思いました。

はじめはとても不安だったけれど、ホストファミリーや、先生方、一緒に行った仲間が支えてくれたおかげで、とても充実した、意味のある旅になったと思います。この国際交流で体験したことを、今後の自分の人生に良く活かしたいと思いました。

シンガポールと美浜町の絆がずっとつづきますように。



## 引率者感想

美浜町教育委員会 委員長 加藤 信

2004年に美浜町とシンガポールとの草の根国際交流が幕を開け、今年3月には歴代の参加者を集めたシンガポール派遣10周年記念同窓会が盛大に行われました。そして、その歴史を引き継ぐ美浜町代表25人の「2014年シンガポール派遣団」は、8月21日の出発式で多くの方々に見守られるなか美浜町を旅立ちました。

「シンガポールと美浜町の“絆”をわたしたちの手で！」そんな想いを胸にシンガポールの地に立ち、最初に訪問したニースン中学校では、ブラスバンドや中国琴の演奏から始まる厚い歓迎を受け、わたくしたちは、あらためて今日まで永年にわたり築き上げられた親密な関係を実感することになります。

そんな温かいセレモニーで迎えられたとはいえ、子どもたちにとって、文化も習慣も違い言葉も通じない異国の地で、家族や友人と離れて生活する数日間への重圧は計り知れなかったことでしょう。それぞれのホームステイ先へと向かう時の子どもたちから伝わる緊張感・不安感、そして引率者であるわたくしたちのとまどいは忘れることができません。

無事交流を終え帰国した8月27日の到着式で、三つのお願いをいたしました。

ひとつは、どのような状況におかれても、柔軟に対応し乗り越える力をもっていることを知ること、ひとつは、シンガポール滞在中に痛感した、常に周りから支えられているという感謝の気持ちを忘れないこと、そしてもうひとつは、シンガポールと美浜町の絆を築くのは自分自身であり、今後どんなときでも、自分の想いや夢は、自らつくり上げてほしいということ。

今あらためて振り返り、6日間のホームステイや交流プログラムを終えた直後の子どもたちの自信に満ちた顔つきやたくましくなった様子を思い起こすと、すでに彼らにとって、それらのことはお願いする必要のないことだったのかも知れません。

2014年8月、美浜町とシンガポールとの草の根国際交流は、勇気ある子どもたちが、身をもってわたくしたちにそれらのことを教えてくれることで、新たなページが刻まれました。



綿密な計画に沿って説明会・学習会を重ねながら、シンガポール派遣に向けた準備を進めていきました。会を重ねるごとに素敵に表情が変わっていく子どもたちをうれしく見続けることができました。

学習会で「時には“ACTOR・ACTRESS”になりきって楽しんでください。」と話をしました。そして、「あなたたちは派遣団員なのです。心意気を感じて、さわやかでありたいですね。」とも話をしました。一生懸命な子どもたちに“あなたの素敵”をあなたらしく表現してほしいと強く感じさせられました。

「シンガポールと美浜町の“絆”をわたしたちの手で！」のスローガンの下、子どもたちと引率者の派遣団33名は大切な仲間になることができました。“チーム”として「訪問してよかった」と実感でき、シンガポールの方々からは「訪問を受けてよかった」と思っていたくことができました。私たち一人一人は愛しむように一日一日を過ごしました。そして、素敵な6日間にすることができました。

言葉が思うように通じず、習慣も異なる異国での経験は、子どもたちにとって国際人となっていく第一歩になったと信じています。イーミン小学校・ニースン中学校と、両校のホストファミリーの方々には深く感謝しています。

シンガポール派遣の機会を与えてくださった町・教育委員会に感謝いたします。そして、今回派遣された子どもたちが今後の派遣事業に対して、「私が力添えをしていきたい！」と願う人になってほしいと心から期待しています。

企画政策課 課長 大井 徳男

私は、今回のフレンドシップ草の根交流に町の職員という立場で参加をしました。参加するきっかけとなったのは、今年の3月に開催された「シンガポール派遣10周年記念同窓会」に参加し、子どもたちの「思い」を聞いて、一週間のホームステイが子どもたちにどんな経験を与えるのだろうという興味深いところからでした。

参加する子どもが決まり、数回の事前学習会が開催されるなか、決められた開始時間に遅れる子、家での英語の学習を復習してこない子などが見受けられ「本当にこの子たち大丈夫なのかな」と考えさせられました。

出発式が終わりセントレアに向かうバスの中は緊張や不安を隠しきれない子、期待に胸を膨らませている子など様々でしたが、ホストファミリーと対面し、夕食のときは多くの笑顔を見ることができ、「この子たちは階段を一步上がったんだ」と感じました。

2日間のホストファミリーとの時間を過ごし、次に会ったときの子どもたちの顔や態度には見違えるものがありました。たぶん、本人たちにはいろんな迷い、悩みなど心の格闘があったことと想像されますが、それらを無事に乗り越え、自信となって表れていたのかもしれない。今回、この交流事業の経験をとおして、子どもたちの成長を身近に感じることができ、この子どもたちが今後の美浜町を担っていくことに強く希望を感じました。これからも、色々な経験をして立派な青年になっていくことを期待しています。

また、5年後、10年後に会いましょう。

「子どもって、こんなに変わるんだ。」

4泊のホームステイを終えて、それぞれの学校で再会した子どもたちの姿から感じたことです。ホストファミリーと初めて会ったときの不安そうな表情とは比べものにならないくらい自身に溢れていました。そこに行き着くまでには、たくさんの勇気や努力が必要だったと思います。

シンガポール派遣に参加しようと思い、実際に申し込んだという勇気。この勇気こそが、子どもたちの成長の第一歩だと思います。不安な気持ちの中、実際に行動を起こし最後までやり遂げたことは、すばらしいことです。この小さな勇気をもてたからこそ、感動を得、自信をもつことができたのだと思います。

また、3回の事前学習会での努力。そして、ホームステイ先での努力。なかなか思いが伝わらない中で、必死に伝えようと努力したことが実を結び、すてきな体験となったのだと思います。「努力は裏切らない」努力した分だけ、成長できたのではないのでしょうか。

私自身もこのシンガポール派遣でたくさんのことを体験し、学ぶことができました。特に、子どもたちから教えられたことが多かったように思います。ホストファミリーとの別れを惜しんで涙する姿は印象的でした。人と人との絆を深めるのは言葉ではなく、それぞれの想いであることを改めて実感し、その姿に感動しました。こんなすてきな感動を与えてくれた子どもたちに感謝です。

子どもたちには、勇気をもつこと、努力を惜しまないこと、出会いを大切にすることを忘れず、今後も、さらなる成長を期待します。

河和中学校 教諭 善明 幸恵

今回の国際交流のテーマであった「絆」という言葉。よく耳にするものの、ふわっとしたイメージしかありませんでした。しかし、子どもたちの交流の様子から、その言葉の意味をしっかりと感じ取ることができました。

それぞれのホストファミリーの家に向かうときの子どもたちの表情には少しの緊張感が見られたものの、次の日、ニースン中学校でのものすごい歓迎ムードにうれしくなり、笑顔でフォーチュンクッキーを披露することができました。そしてそれから三日後に見た子どもたちの顔には、充実感と自信があふれていたように思います。ホームステイの間、おそらくうまくいったことばかりではなかったでしょう。言葉や文化、習慣の違いに戸惑った子もいたようです。それでも自分の思いが伝わったとき、相手が理解しようとしてくれたとき、涙が出るほどうれしかった、なんて子もいたのではないかなと思います。こうやってお互いを理解しようとする気持ち、行動が「絆」なのかなと感じました。国境を越えた「人とのつながり」を今後も大切にしていきたいと思います。

この交際交流は子どもたちにとって、きっと一生忘れられない経験になったことでしょう。そしてそれだけでなく、視野を広げ、大きく成長する機会にもなったと思います。その場に立ち合えたこと、少しでも関わられたことは、私自身にとっても大変よい経験になりました。ありがとうございました。

美浜町フレンドシップ草の根国際交流ホームステイの旅に、引率として参加させていただき、本当にありがとうございました。

事前学習会では、シンガポールの歴史や美浜町との繋がり、英会話を一生懸命学ぶ姿に子どもたちの強い意気込みを感じました。また、パフォーマンスの練習では、一人一人がしっかりと予習し、全員での練習に臨む姿勢に頼もしさを感じました。学習会を通して、学校を越えた繋がりができました。

シンガポールでのホストファミリーとの対面では、楽しみな気持ちと不安な気持ち、緊張が混ざり合った表情をしていました。しかし、翌日には、一緒にスポーツをしたり、昼食を食べたり、笑い合ったりと、心の距離がとても近くなっていました。英語しか伝わらない環境の中で、学んだ英語やジェスチャーを駆使して、「伝えたい」という強い思いがホストファミリーとの心のコミュニケーションに繋がったのだと思いました。そんな子どもたちを見て、一番大切なのは言葉ではなく気持ちなのだと改めて感じました。

私自身も中学生の時に、町の事業でカナダへホームステイをしました。人との繋がりやコミュニケーションの大切さ、文化の違い、日本ならではのよさなど、そこで感じたことは今でも忘れません。25名の子どもたちの心の中にも、この旅の貴重な体験はずっと残っていくと思います。この旅をこれからの人生にどのように生かし、どう活躍していくのか本当に楽しみです。

最後に、学校や学年の違いを越え、25名の子どもたちと1つの学級のようになれたことを心から嬉しく思います。

学校教育課 主事 鈴木 太一

去年に引き続きこの事業の担当をさせていただきましたが、今回は児童・生徒の旅行団としての結束がしっかりしていて、今まで以上に充実したシンガポールの旅になったのではないかと思います。

子供たちは現地で、楽しいことばかりではなく、特にホームステイでは心細かった事、歯を食いしばって耐えた事などあったと思います。しかし子供たちは短い期間の間にそのような多くの困難に立ち向かい誰に頼ることなく乗り越えてくれました。そして交流を終えて美浜に帰ってきたときは家族や先生に出迎えられ安心したとびきりの笑顔とともに、シンガポールで外国の方と触れ合ってきたことや、外国で貴重な体験をしてきたぞ、との自信にあふれる表情をみせてもらいました。

そのような皆さんの表情を見させていただき、自分自身も嬉しくさせていただきましたし、この国際交流が皆さんにとって意義のあるものであったと確信できました。本当にありがとうございました。

そのような貴重な体験をしてきた子供たちに私からお願いしたいことがあります。それは今回体験したこと、また海外で体験して感じたことを大切にして、このことを今後の中学、高校、大学また社会人と成長していく中で生かしていただきたいと思います。世界はシンガポールだけでなく、様々な国があります。今後は世界に興味をもち、世界とつながるチャンスを自らつかみ、多くの海外の人たちと係わり合い、体験することによって見聞を広め美浜町から世界に羽ばたいて行ってほしいと願っています。

「国際交流を終えた感想は？」と聞かれたら、「今年も実り多き交流だった」というのが、その答えです。たくさんの収穫の中でも、最も心に残ったのは、「実践こそ生きた学習になる」ということです。

これまで英語教員として、どのようにしたら英語学習への意欲を持たせることができるか、長年苦慮してきました。今年は、昨年以上にその答えを実感することができたように思います。

参加児童の中に、「ホストファミリーに誕生会を開いてもらったよ。大きなケーキも食べたよ」と、嬉しそうに話す子がいました。私が、「どうしてその日があなたの誕生日だということが、ホストの方にわかったの」と尋ねると、「ぼくがそのことを話したからだよ。先生が言い方を教えてくれたでしょ」という、返事が返ってきました。

またある子は、「ホストの人と少し英語で話せたよ。学校で習った言い方だけだけどね」と話してくれました。

この二人の子のように、学習したことを実践の場で生かすことができたという体験よりも、思うようにコミュニケーションがとれなくて、困った子という思いをしたこの方が多くいたでしょう。しかしその両方の経験が、今後の更なる学習意欲へとつながることを、子供たちの会話の中から確信しました。

生きた学習とは、正にこのことだと実感した旅でした。

